

## KAGAWA アンバサダーからのお便り ～石見康雄さん～

2010年に名古屋で国連の生物多様性委員会の国際会議が開かれた際に日本政府が提唱した『Concept of SATOYAMA 里山コンセプト』は、『自然と人々が調和・共生する日本のオリジナル文化』として世界の賛同を得ました。

香川県で行われている「豊かな海」の実現を目指し、山・川・里（まち）・海をつなげる『かがわの里海づくり』運動は、ふるさと香川県の自然を未来の世代へと繋げていく『里山コンセプト』に通ずる実践活動であり、素晴らしいことと思います。

実は香港でも2001年から在留邦人の有志と共に山火事後の森林再生と香港地域への貢献を目的として、5年の間に13回、作業を継続し延べ人数1,000名余りのボランティアパワーで『日本・香港交流の森』の森造りを行いました。今年で20周年を迎え木々は大きく成長し小鳥が囀っています。2006年からは森林規制により間伐などの管理はできていません。いつの日か『里山コンセプトの森造り』が叶うことを願っています。



2001年植林日記念写真-150名余のボランティアと共に

オイスカは日本発信の国際 NGO(1995 年国連認証の非政府組織)です。60 年前の創立当時、日本は経済発展を求めて突き進んでいました。創立者は「物質ばかりが発展して精神を疎かにすれば、やがて世界は行き詰まりを迎えるであろう。」と警鐘を鳴らしました。「大自然の摂理・恩恵を無視して人類の欲望のままに物質文化の発展に突き進めば、深刻な問題を引き起こしかねない。」と。この理念のもと、第2次世界大戦後、植民地から独立したアジアの国々の食糧危機を支援するため、1966 年からインドやフィリピンを手始めに日本人の篤志家を手弁当で送り出しました。現地の人々に農業の技術指導をしながら共に汗を流し自給自足の促進に貢献しました。その後も各国に活動を広げました。1970 年代に農業用水確保のため若者たちと共に山林植林を始めました。その後、子供たちの環境意識を育てる『子供の森計画』運動を開始し、現在は世界 37 カ国に広がり、国際機関からも高く評価されています。

香港には金融の街、観光の街と呼ばれる大都会がある一方で、350 種(90,000 羽)もの渡り鳥の中継地『マイポー自然保護地区』の湿地帯、200 年余の歴史ある牡蠣養殖場となっている后海湾(Deep Bay)など郊外には豊かな大自然が広がっています。しかしながら、山火事等によって荒れた禿山、荒れた海岸もあります。このような環境保全が望まれる地域において、香川県の『かがわ里海づくり』をモデルとするような運動を展開する日の来ることを夢見ています。



后海湾(Deep Bay)/ 夕日の景勝地



后海灣(Deep Bay)/ 牡蠣筏の前方には深センビル群が立ち並ぶ



**石見 康雄 (いしみやすお) さん**

1996年より香港在住。主に国際親善・環境保全活動を推進するかたわら、香港の青少年を日本のサマースクール派遣、日本の高校・大学留学促進にも力を入れている。また、香港人グループを香川県に引率して讃岐文化紹介や産業視察なども実施。現オイスカインターナショナル香港総局事務局長。

◇ **KAGAWA アンバサダーについて**

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇ **KAGAWA アンバサダーからのお便りについて**

県民の方々にKAGAWAアンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されているKAGAWAアンバサダーの方々から在住国やご自身の活動等についてご紹介いただくものです。